



令和6年6月  
No.11  
管理者 岩槻愛子

～児童発達支援～

木々の緑が色濃くなる季節となりました。皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。6月に入り急に汗ばむほどの暑い日があつたりしますが、体が暑さに慣れないうちは、さほど気温が高なくても熱中症にかかる危険が高まります。活動中の子どもたちにはこまめに水分補給をおこない、体調の変化に十分気をつけながら、元気に楽しく活動が出来るように支援を組み立て、実践していきたいと思ひます。

梅雨が近づいております。体調を崩されませんようどうぞご自愛ください。

## 食事とことば ②

### ～「かじりつき」や「舐めとり」がさまざまな機能を育てる～

お子さんが自分でごはんを食べる時、姿勢や食べこぼしなどマナーに関することが気になりやすいものです。食べやすさから具材を小さめにしたり、柔らかくしたもののばかり食べ続けていると、口の機能が未発達なまま定着してしまいます。そうなってしまうと口に入りきらないくらい詰め込んでしまう、かたいものが噛めない、早食いで何でも噛まずに飲み込む、よだれがたれやすいなどの様子に繋がっていくことがあります。

そして困ったことに一度食べ方の癖が習慣化すると、いくら声かけしても口の機能自体が未発達なため、自分で気づいて直していくことが難しい場合もあるのです。だからこそ、離乳食が完了した頃からはあえて食べにくい大きさやかたさに挑戦してみるの大事な経験と言えます。

例) ・スイカやメロンを半円形に切ってそのままかぶりつく。

- ・とうもろこし、トマトなどにかぶりつく。
- ・長いままのきゅうりをかじり取る。
- ・ぶどうを皮のまま食べて皮と種をはきだす。
- ・コッパンのような口より大きなパンや骨付き肉にかぶりつく。
- ・口のまわりについたソースやアイスを舐めとる。

食べ物の大きさに合わせて口を開いたり、目一杯口を開いても自分の口には入りきらないという感覚をつかむ経験になります。また、口のまわりについたソースやアイスに合わせて舌を伸ばし舐めとる動作は舌の動きの練習にもなるため、言葉の発達にもつながっていきます。一見汚くなりやすい食べ方ではありますが、こういった食べ方が、口まわりの筋肉や舌の動きを育てていくのです。

## 佐々木作業療法士 相談日

6月10日(月)・6月24日(月)

※お子様の発達について質問や相談などがありましたら、お気軽に職員にお声がけください。

特定非営利活動法人セミナーレ ほっぷ  
988-0318

宮城県気仙沼市本吉町登米沢24番地1

☎ :0226-25-7710

FAX :0226-25-7764

✉ :seminare@iaa.itkeeper.ne.jp



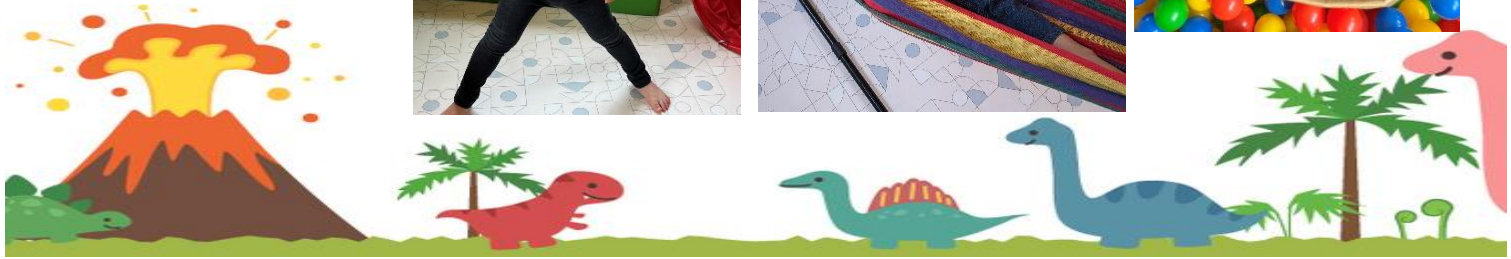
# 活動のようす



きゃあ~!!!



はい!ちーず!



お口の周りの筋肉(口輪筋)をしっかり使って息を吹き込んだり、風船を膨らませたいしています。



舌がしっかり出るようになりました。舌の動きを上手にコントロールしています。

